

真坂人形

ゆるっと心に入り込む
 あいさよう
 愛嬌たっぷり土人形



《左》イエティ 《右》イエティの子ども ※写真はほぼ原寸

この人形がまとう独特な空気は一体何なのか。「精巧精緻・愛嬌満載」をモットーに、思わずクスッと笑ってしまいそうなユーモアのあるたまたまが魅力の「真坂人形」。県内外に根強いファンがあり、個展を開けば作品があつという間に人々の手に渡っていく。

生みの親は、秋田市を拠点に制作を続ける真坂歩さん。2018年に秋田公立美術大学・アーツ&ルーツ専攻を卒業した。大学3年の夏に、課題で郷土玩具「八橋人形」のリサーチをしたことがきっかけ

で土人形に興味を持ち、その伝統的な素材さを継承しながら、よりシンプルにモチーフを造形する真坂人形を作り始めた。いわば真坂人形は、アートの郷土玩具の間のような存在なのである。

薄く伸ばした粘土を石膏型の内側に貼って形を取り、乾燥させた後、700℃で素焼きする。胡粉

に染料を染め付けた「水干絵の具」に

膠を混ぜた顔料で彩色。自身がか

つて日本画を描いていたことも

相まって、日本の伝統的な絵の具

で人形を着色するのはごく自然な

流れだったという。

「具体的過ぎない、抽象的な人形が好き。作っている時はあまり考えずに作っていて、



この人形のように自然体でいいの
 かも、と勇気付けられる。
 「ふとした瞬間に笑ってもらえ
 ばそれでいいかな」
 そうつぶやく真坂さん自
 身もまた、どこか真坂人形
 と似た、柔らかな空気をま
 とっている。

《左》鮭抱きクマ 《右》干支(うま)

シニール感も狙って出しているわけではないですが、出来上がった物を見て自分でも笑ってしまったらよくできたかな」と感じます」

笑顔、泣き顔など、固定化された感情はあまり出

さない。どんな時でもあるがままにたまたま真坂人

形。見ればちよつぷり肩の力が抜けて、

この人形のように自然体でいい

の

かも、と勇気付けられる。

「ふとした瞬間に笑ってもらえ

ばそれでいいかな」

そうつぶやく真坂さん自
 身もまた、どこか真坂人形
 と似た、柔らかな空気をま
 とっている。

真坂 歩さん

秋田市在住

Instagram @masaka_ningyo

●販売場所 風と地の吾、個展など

●イベント情報

真坂人形展示販売会

～真坂人形で冬支度2025～

12月10日(水)～14日(日)

ココラボラトリーにて

